

最上圏域河川整備計画 公聴会意見・質問に対する県の考え方

日時：平成18年6月24日（土）午後1時30分～

場所：最上町瀬見小学校体育館

参加者：最上町、舟形町住民 101名

(流域内住民の意見・質問)

番号	意見・質問内容	県の考え方
1 意見	○早急に計画を決めて災害を防いでほしい。	●治水対策の工法について検討した結果、効果発現までの時間が短く、工費も安い穴あきダム案で進めていきたいと考えています。
2 意見	○安全安心して孫の代まで暮らせるような穴あきダムを至急つくってもらいたい。	同 上
3 意見	○これまで、二度旅館の大浴場が流された。宿泊客二十数名と夜中避難したことがある。1日も早いダムの着工と完成をお願いする。	同 上
4 意見	○すぐに水が上がり、床下浸水などさまざまなことが起こり、非常に苦しんできた。ダム建設に対してさまざま反対運動はあることは知っている。功罪、是非はあると思うが、それを乗り越えてやるべきだと思う。計画をここまで煮詰めたのだから、実際に行動に移してほしい。	同 上
5 意見	○小委員会を全て傍聴したが、それぞれの立場の専門家の意見を十分に取り入れた「人間と魚が共栄・共存する」内容だと思う。説明のあった穴あきダムならば、環境にもある程度配慮されており現時点ではこれしかないのかと思う。 ○注文として、技術は進歩しているので、その時点の最高レベルの環境対策をとること。事前モニタリングは住民や漁協も一緒にやっていただきたい。 ○ダムだけでなく、清流小国川を全国にPRするための駐車場や遊歩道などの河川整備や警報システムや緊急時や地震火災などの時の水は重要で、消防ポンプ車が川に入って消火活動ができるような防災車両など防災対策も必要である。	同 上

<p>6 意見</p>	<p>○ダム<small>の</small>陳情をして30年。この論争を延々やっている間に災害があつたらだれが責任を負うのか。観光客や住民の安全に対して県はどういう責任を負うかはっきりといって、早く進めて、安心される最上町にしていただきたい。</p>	<p>同 上</p>
<p>7 意見</p>	<p>【小委員会関係】 ○委員会そのものが、本当に治水対策のための委員会であるか判断したときに、ダムありき、ダムでなければだめだという説明の中で開かれている。委員会の結論がこういう形でであるろうとは想像していた。 ○小委員会も、ダムありきの資料を出して結論を導いた。十分に議論されたということではないことで、そのことが解消されないままにダム案に賛成するわけにはいかない。</p> <p>【治水手法】 ○河道改修やかさ上げ案で赤倉地区を改修することで何とか治水対策が図れるのではないか。また、放水路案を主張してきた。赤倉温泉街の下流は農耕地しか水害の対象にならず、赤倉温泉の河道改修を先にすれば、短期間でやれると思う。かさ上げ案についても、赤倉温泉街の人達がじっくりと本心の治水対策をするにはどうするか、早くするにはどうするかを、ダムありきでなく、ダムでなくても、治水対策は十分できると思う。</p>	<p>【小委員会関係】 ●小委員会のメンバーについては、山形大学教授の大久保先生を座長に河川工学・猛禽類専門家・歴史研究者・公益活動・防災関係・漁業に関する学識経験者、最上地区の流域代表から構成されており、中立な小委員会であると認識しています。</p> <p>【治水手法】 ●治水対策の手法は、河道改修案・放水路案・穴あき型ダム案について各種調査や環境調査を平等に行い3案を詳細に設計し提案いたしました。ダムありきという説明はしておりません。 ●かさ上げ案については、委員会に提案しましたが、旅館を一時休業しなければならないことや、護岸が高くなることで景観上よくないという意見がありました。 ●放水路案については、委員会に提案しましたが、事業費が高いことと、下流河川の改修が必要で赤倉温泉区域の効果発現まで時間がかかることがあります。また、放水路トンネル掘削による地下水への影響の可能性や常時は、放水路は水が流れていないため環境悪化の懸念や維持管理が大きくなりことが考えられます。さらに、ゲート操作では山際の短時間の出水に対する人為的な操作が必要になるなど検討すべき課題が多いと考えています。</p>

	<p>【環境】</p> <p>○県は、穴あきダムであれば魚に対する影響はない、土砂もスムーズに流れるので害はないと主張してきたが、やはりその懸念はある。完成してから被害が出た場合、ダムを壊すことはできないため、慎重にやらねばならない。魚等動植物の生態系を変えて頂きたい。</p> <p>【アンケート】</p> <p>○平成13年に行った最上小国川に関するアンケートでは、ダムでやったほうが良いという意見が40%、ダムでないほうが良いという意見が60%ということに目をむけなければならない。</p>	<p>【環境】</p> <p>●環境に与える影響の調査について、シュミレーションや穴あきダムの事例を調査しました。それによると現在の知識・知見では100%ないとは言えないが、しかし極めて小さなものであろうと推測できます。ただし100%わからない部分は、工事の前から調査をし、影響があるようであれば、対応方法を検討するよう考えています。</p> <p>【アンケート】</p> <p>●平成13年度のアンケートは、ダム案が41%、放水路案が34%、温泉街を移転した河川改修案が8%、最小限度の河川改修が14%、その他が3%です。各案について一番多いのがダム案となっています。</p>
<p>8 意見</p>	<p>【環境】</p> <p>○ダム上流の森林を伐採することの環境にも十分考える必要がある。</p> <p>【治水手法】</p> <p>○新潟県の五十嵐川には2つのダムがある。H16年の大雨では、2つのダムがあっても洪水・堤防決壊があり被害を受けた。計画規模を越えたときは避難するほかない、川から遠ざかる、高いところに行くことが一番いい洪水対策である。それには、かさ上げ案にするべきである。</p> <p>○貯水して地盤が軟らかくなり、崩壊した流木や土砂による穴がつまることへの説明がない。</p> <p>【その他】</p> <p>○ダムのない川清流小国川を看板にして釣り人に来ていただいている。町の交流人口の拡大に貢献していると自負している。</p>	<p>【環境】</p> <p>●伐採予定箇所は二次的な植生環境の復元が予測されるが伐採の必要性も含め今後検討します。</p> <p>【治水手法】</p> <p>●新潟県五十嵐川等の事例については、新潟県のホームページに、洪水を調節して下流河川に流れる水量を少なくし、破堤に至るのを大幅に遅らせるとともに、洪水氾濫量の軽減に寄与した様子が説明されています。また、計画を越える規模の場合は、避難することが原則でその心がけは持って頂きたいと考えています。</p> <p>●かさ上げ案については小委員会へ説明しています。しかし、護岸が高くなることで赤倉温泉街の景観が一変してしまうことや、旅館の立て替えによる休業が出るなどの意見が多く出されました。</p> <p>●穴の閉塞に対して、流木等に対してスクリーン等を設置し、流木処理や土砂の排除等の維持管理費が必要であると考えています。</p>

9 質問	○目標とする流量の設定について。	●50年に1回起こる程度の雨を想定しています。
10 質問	○漁協がこのまま反対した場合の県の対応は。	●これまでも説明を行っていますが、これからも説明を続け理解を求めていきたいと考えています。

(流域外住民の意見・質問)

番号	意見・質問内容	県の考え方
1 意見	<p>【小委員会関係】 ○小委員会の意見は、ダムによる治水論を主張する方が余りにも多い。極めて不当な委員会構成である。</p> <p>【治水手法】 ○これ以上ダムはいらないと思っている県民は漁協だけでなく、多くの県民が思っている。 ○委員の方が指摘された、流木が挟まったとき、ダムから水が越流する可能性の問題についてはどうするのか。</p> <p>【環境】 ○アユは町づくりを考える上で大きな要素、その天然アユがのぼる清流を持つ経済効果についてどのように把握しているのか。</p>	<p>【小委員会関係】 ●各委員の方が、ダムありきで参加しているという認識は持っておりません。どの方がダム賛成、どの方がダム反対という色分けはないと考えております。委員の中でも、私たちは客観的な目で見えて判断して、ダムでなければ最上小国川の治水はできないという意見が述べられています。</p> <p>【治水手法】 ●当委員より、穴あきダムをつくればメンテナンスフリーのような印象を持たれたようなので説明しました。やはり維持管理のための体制や予算は必要であることは知っておく必要があります。また、技術的な解決策はあるとの意見を頂いております。</p> <p>【環境】 ●基本的にアユに対する影響は小さいと考えていますので、影響がある前提での評価はしていません。</p>
2 質問	<p>○環境現況調査で重要種について学識経験者の助言を求めるとしているが環境対策費はどの程度ふくまれているのか。</p>	<p>●現在、環境対策費については、具体的に積み上げられる段階ではありません。</p>

原案に対する意見の要旨（公聴会から2週間の閲覧期間に届けられたもの）

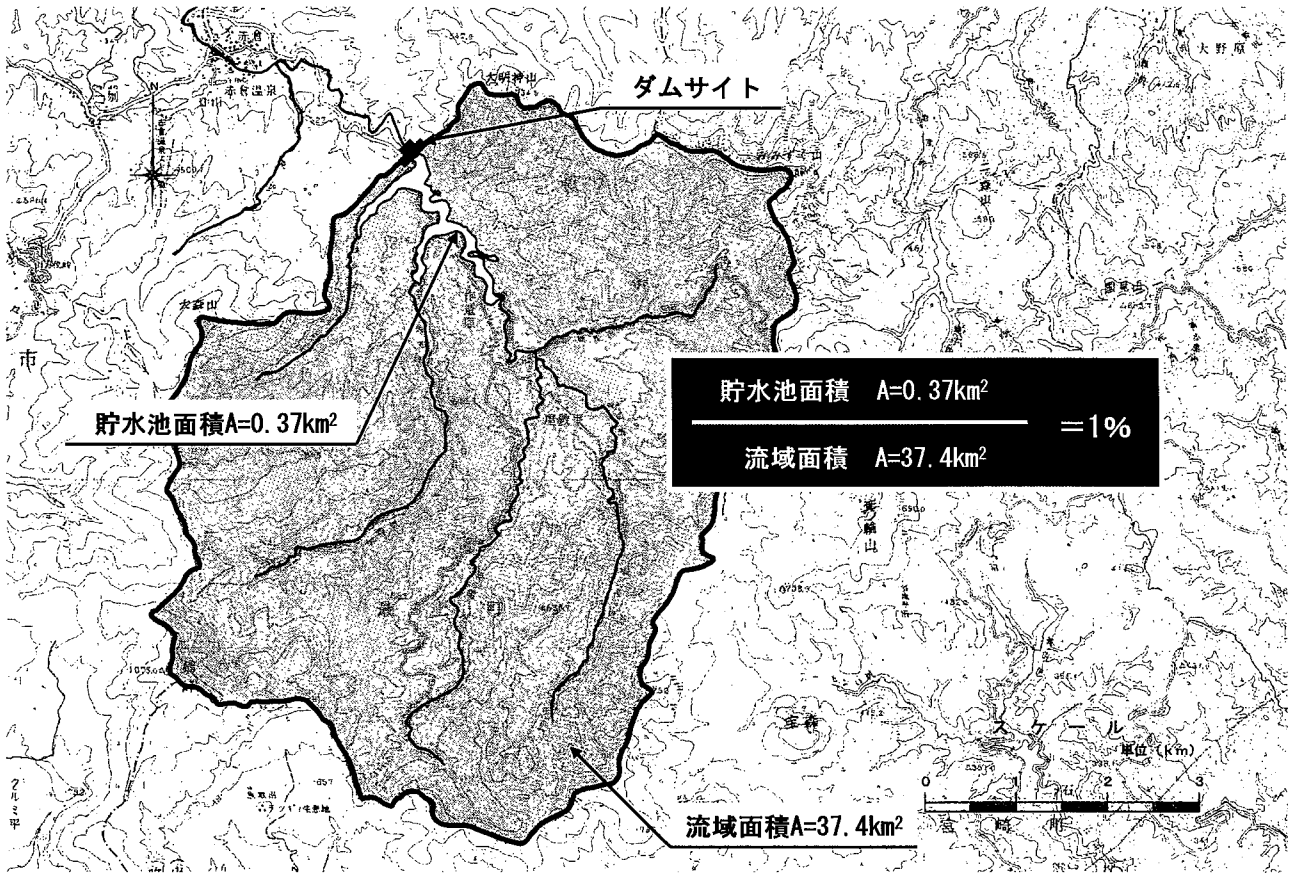
（流域内住民の意見）

番号	意見要旨	県の考え方
1	<p>○基本的な治水対策は赤倉地区の河道浚渫による河積の確保、狭窄部の対策を行うことである。</p> <p>○基本高水、計画高水流量の算定に科学的根拠が欠落している。</p> <p>○穴あきダムは人為的操作が出来ないため、下流河川整備が完了しない限り、洪水被害を拡大する恐れが高い。</p> <p>○ダムに堆積した土砂の流出が濁り水となり砂礫に付着し、アユに致命的なダメージ与える。</p>	<p>●現河川の浚渫や狭窄部の対策だけでは目標とする流量は流せず、安全を確保できません。これについては小委員会で説明しております。</p> <p>●基本高水、計画高水についても小委員会で説明しましたが、現在の河川砂防技術基準に則り計画しております。</p> <p>●洪水調節ダムには大きく分けて、ゲートで調節するダムとゲートを用いないで調節するダムがあります。各々特徴がありますが、小さい流域の場合は雨が降り出してから洪水が出てくる時間が短いことから、人為的操作を伴わないゲートなしダムが多くあります。県管理では5ダムがゲート操作を伴わないダムであり、洪水調節を行い、被害の軽減を図っています。</p> <p>●穴あきダムでは、濁水の流出は洪水と共に収まることや、ほとんどの砂礫は洪水時に流下することから、アユへの影響は極めてすくないものと考えています。</p>
2	<p>○ダムありきでは舟形町と最上町の対立に発展するのではないかと心配です。</p>	<p>●地域の対立を招かないように、反対者に対しては今後も説明を行い、理解を求めていきます。</p>

(流域外住民の意見)

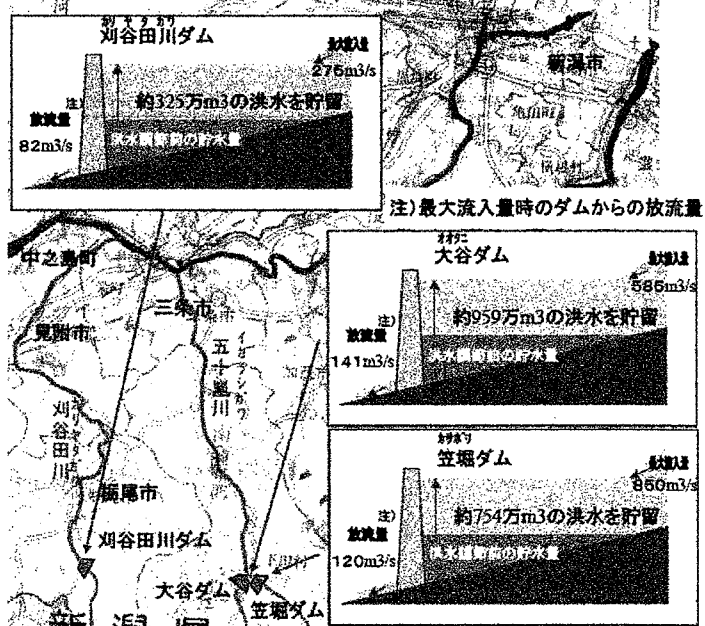
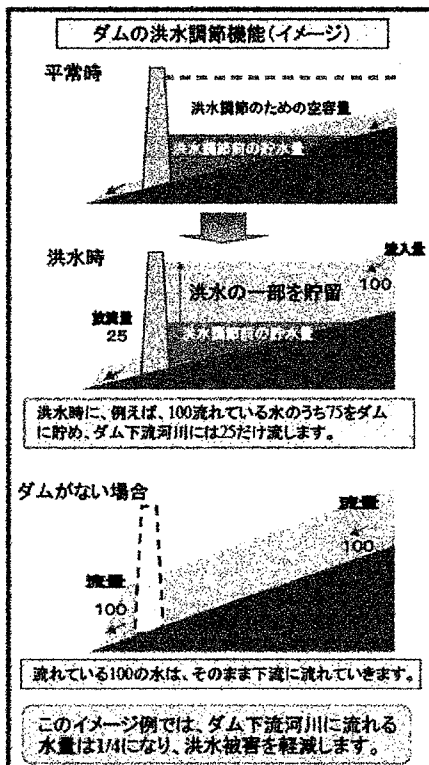
番号	意見要旨	県の考え方
1	<p>○最上小国川の治水計画について、地域の意見を反映した川づくりを推進する新しい河川法の変更点が、形だけになっていないか。</p> <p>今回のダム案を一旦白紙に戻し、地域住民の意見を幅広く取り込み、法の精神に沿った民主的な方法による再協議を要望する。</p>	<p>●最上小国川の治水計画原案策定に当たっては最上地区小委員会を6回開催し、また地元公聴会も行い、意見を伺っており地域の意見が反映されたものと考えます。</p>
2	<p>○ダム建設ありきでなく、地域との十分な話し合い、費用対効果の検討など、まだまだ議論が足りない。</p>	<p>●最上地区小委員会では、ダム、放水路、河川改修の3案を説明し、協議されましたので、ダムありきの協議ではないと考えています。また議論は十分行われたと考えています。</p>
3	<p>○穴あきダム建設は猛禽類の生息に壊滅的な影響を与えるものと判断し反対します。</p>	<p>●平成14年度から猛禽類の調査をおこない11種類の飛翔を確認しています。</p> <p>この中で特に注目しているのがクマタカになります。これについては営巣木を確認しており、ダム予定地から0kmほど離れており施工中の騒音による影響は小さいと推測しています。</p> <p>また、ダム完成後についても、通常は水を貯めないダムであることから影響は小さいと考えています。なお、今後は環境の専門家による委員会を設置し、意見をいただき、必要な場合には保全措置を行っていきます。</p>

ダムサイト流域範囲



平成16年7月新潟・福島豪雨におけるダムの効果

※今後の調査により数値等が変わる場合があります。



3ダム合計で約2,038万m³(新潟県庁約107個分)の洪水を貯留し、ダム下流の河川に流れる水量を少なくして、破堤に至るのを大幅に遅らせるとともに洪水氾濫量の軽減に寄与。